

Kavli IPMUへのWPI支援、2017年度から5年間の延長決定

2015年2月13日に文部科学省からWPIプログラム委員会による2014年度フォローアップの結果が示され(http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/toplevel/1355021.htm)、2007年度にWPI拠点として採択されたKavli IPMUを含む5拠点は、共にWPIプログラム開始当初の目的とされていた世界最高峰の研究水準の進展、国際的な研究環境の実現、既存の研究組織の改革、そして融合領域の創出を達成し、世界トップレベル研究拠点(World Premier Status)という地位を確立したという高い評価を受けました。さらにWPI支援の5年延長に関して、委員会は、拠点の成果が非常に高いWPI基準をはるかに超えた、高度に例外的な場合に相当するとして、Kavli IPMUに対する2017年度から5年間にわたる支援延長が適当と評価しました。

東京大学国際高等研究所の英文名称、変更される

2015年4月1日より東京大学国際高等研究所の英文名称が、Todai Institutes for Advanced Study (略称TODIAS) からThe University of Tokyo Institutes for Advanced Study (略称UTIAS)へ変更されます。これは東京大学の英文略称が“Todai”から“UTokyo”に変更されたことに伴うもので、ロゴマークも変更されます。なお、和文名称には変更はありません。

小松英一郎客員上級科学研究员、2014年度林忠四郎賞を受賞

マックスプランク天体物理学研究所ディレクターでKavli IPMU客員上級科学研究员を兼ねる小松英一郎さんが「宇宙マイクロ波背景放射に基づく精密宇宙論の開拓」により2014年度林忠四郎賞を受賞しました。小松さんは2001年から2010年まで宇宙マイクロ波背景放射の精密観測を行ったWMAP衛星の実験グループに参加し、論文の筆頭著者を努めるなど、主要メンバーとしてデータ解析やデータの理論的解釈をリードし、宇宙物理学分野の発展に寄与してきたことが評価されました。



小松英一郎さん

中家剛客員上級科学研究员と塩澤真人上級科学研究员に第6回戸塚洋二賞

京都大学大学院理学研究科教授でKavli IPMU客員上級科学研究员の中家剛さんと東京大学宇宙線研究所教授でKavli IPMUの上級科学研究员の塩澤真人さんが、高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授の小林隆さんと共同で、T2K長基線ニュートリノ振動実験での「加速器ニュートリノビームによる電子ニュートリノ出現現象の発見」により、第6回戸塚洋二賞を受賞しました。



中家剛さん



塩澤真人さん

小林俊行主任研究员、2015年JMSJ論文賞を受賞

東京大学大学院数理科学研究科教授で、Kavli IPMU主任研究员の小林俊行さんが2015年JMSJ論文賞を受賞されまし



小林俊行さん

た。この賞は前年の*Journal of the Mathematical Society of Japan (JMSJ)*に掲載された論文の中から、特に優れた論文(3篇以内)の著者に贈られます。今回の受賞論文は、“Minimal Representations via Bessel Operators (ベッセル作用素による極小表現の理論)、“*JMSJ* 66 (2014) 349-414”で、共著者であるJoachim Hilgert、Jan Möllers両氏との共同受賞です。

カリフォルニア州サンノゼにおけるAAAS年次大会にWPI拠点が合同参加

アメリカ科学振興協会(AAAS: American Association for the Advancement of Science)の第181回年次大会が2015年2月12日から16日の5日間、米国カリフォルニア州サンノゼで『Innovations, Information, and Imaging』をテーマに開催され、シカゴで行われた昨年到现在に続いてWPIの全9拠点が合同でブースを出展しました。ブースでは各拠点のパネルや、パンフレット等が展示され、文部科学省と日本学術振興会からWPI担当者、及びKavli IPMUを含む8拠点から職員が参加して説明を行いました。展示を行った3日間にブースを訪れた400名弱の人たちには、WPIプログラムおよび各拠点の研究活動や成果を直接伝えることで、興味深く聞いてもらうことができました。Kavli IPMUはAAAS年次大会に4年連続で職員を派遣して参加したことになります。次回は2016年2月に米国ワシントンD.C.で開催される予定です。

スプリング・サイエンスキャンプ「天文、物理と数学で宇宙の謎とときに挑戦」を開催

2015年3月25日から27日までの3日間、Kavli IPMUで「スプリング・サイエンスキャンプ 2015天文、物理と数学で宇宙の謎解きに挑戦」が開催されました。

スプリング・サイエンスキャンプ2015は、科学技術振興機構(JST)の事業の一つである科学技術系の人材育成の一環として行われた高校生向けの

科学技術体験合宿プログラムです。3月の春休み期間中、様々な分野において、先進的な研究テーマに取り組む大学、民間企業等の12会場で、それぞれ8～20名(計168名)の規模で実施され、参加者は2泊3日の合宿生活を送りながら、第一線で活躍する研究者・技術者による直接指導を受けました。

Kavli IPMUのプログラムへの参加者は、日本全国から応募し、高倍率の書類選考で選ばれた男女各10名の高校生で、物理学者、数学者、天文学者による最先端の研究の講義や実習を通して、宇宙の謎を解き明かす研究を体験しました。講義や実習の終了後、夕方には講師およびティーチング・アシスタントの大学生、大学院生との交流会や質問コーナーが設けられ、講義と実習で聞き足りなかったこと、大学生活、研究者の生活についてなど、じっくり話し合うことができました。また、午後3時のKavli IPMUのティータイムにも参加し、国内外の研究者との交流も楽しみました。最終日には参加者発表会が行われ、修了証書が授与されてキャンプが終了しました。



高田教授による講義



天文学実習風景

一般講演会「超新星から探る宇宙の姿と運命」を開催

2015年3月29日に東京大学本郷キャンパスの弥生講堂一条ホールにおいて、Kavli IPMU主催の一般講演会「超

新星から探る宇宙の姿と運命」が開催され、約200名が来場しました。この講演会は、Kavli IPMUの主要な研究テーマの一つである超新星研究の最先端を広く一般に発信する目的で開催されたもので、主任研究員の野本憲一教授が「超新星とは」、マーク・ヴェイギンズ教授が英語から日本語への同時通訳つきで「超新星からのニュートリノ」、鈴木尚孝助教が「暗黒エネルギー発見物語」と題して講演しました。3人の講演終了後には、講師を囲んでのティータイムが設けられ、参加者からの質問が続きました。



講演する野本憲一教授



講演するマーク・ヴェイギンズ教授



質問に答える鈴木尚孝助教

人事異動

転出

次の方々が転出しました。[括弧内はKavli IPMU在任期間です。]

岡部信広さん [2013年9月1日 - 2015年2月28日]、Kavli IPMU 博士研究員から広島大学大学院理学研究科助教へ。

長崎晃一さん [2014年4月1日 - 2015年3月31日]、日本学術振興会特別研究員から高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所協力研究員へ。

高野浩さん [2014年4月1日 - 2015年3月31日]、日本学術振興会特別研究員から Kavli IPMU 学術支援専門職員へ。

訂正

前号のKavli IPMU News No. 28の
 ・44ページ第2コラム(中央)本文の下から6行目、「フィーブル賞」を「フィールズ賞」に
 ・48ページ第1コラム(左端)本文の2行目、「ポアンカレ」を「パスツール」に
 ・51ページ第1コラム(左端)下から10行目より、「超弦理論」を「超重力理論」に
 それぞれ訂正します。(Web版では訂正済みです。)